

生物多様性カフェはじめました

話題提供者と参加者が気楽に語り合うトークライブです。主に中学生・高校生を対象とした「生物多様性カフェ・ユース編」も開催します。この機会に是非、なごや生物多様性センターへいらっやしませんか。お待ちしております。

平成25年度の開催予定 ※予定は変更になる場合があります。

日 時	テーマ	話題提供者
8月8日(木) 19時～20時30分	多様な生物と生態系に 支えられるまち「なごや」に	愛知教育大学名誉教授 芹沢 俊介さん 実施済み
9月12日(木) 19時～20時30分	NO COFFEE, NO LIFE ～コーヒーがもっとおいしくなる話～	株式会社ボンタイン珈琲 代表取締役 加藤 慶人さん 募集は9月2日まで(定員に満たない場合は継続募集しますので、お問い合わせください。)
10月11日(金) 19時～20時30分	生物多様性と里山のくらし ～エコミュージアムづくりの視点から～	岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 嵯峨 創平さん 募集は9月30日まで(定員に満たない場合は継続募集しますので、お問い合わせください。)
11月8日(金) 19時～20時30分	熱帯雨林の生物多様性	名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 中川 弥智子さん
12月14日(土) 10時～11時30分	都市化する鳥たち ～ぼくたちが街を選んだわけ～	日本野鳥の会愛知県支部 なごや生物多様性保全活動協議会幹事 新實 豊さん
12月14日(土) 13時～15時	特別編(ワークショップ) 大人のための「生物生態画」講座	nature works理事長 小村 一也 さん 川いい会代表 石山 郁恵さん
12月20日(金) 14時～15時30分	淡水二枚貝 ～いきものたちのつながり～	ガタレンジャー(藤前干潟ボランティアレンジャー) 岐阜大学大学院水環境学研究室 近藤 美麻さん
ユース編 中・高校生対象 平成26年 2月16日(日) 10時～11時30分	「なごやの森」への招待状 ～もりの声を聞いてみませんか～	なごや東山の森づくりの会会長 なごや生物多様性保全活動協議会会長 滝川 正子さん
2月16日(日) 13時～14時30分	子どもの気づきは未来へつながる	東海学園大学教育学部教授 木村 美知代さん
2月16日(日) 15時30分～17時	パピヨンから見える生物多様性	名古屋昆虫同好会会長 なごや生物多様性保全活動協議会副会長 間野 隆裕さん

※ユース編に参加を希望される「小学生の方」は保護者の方と一緒に申し込みください。
また、お席に余裕のある場合は、「大人の方」も参加いただけますのでお問い合わせください。

オニバスは今 2

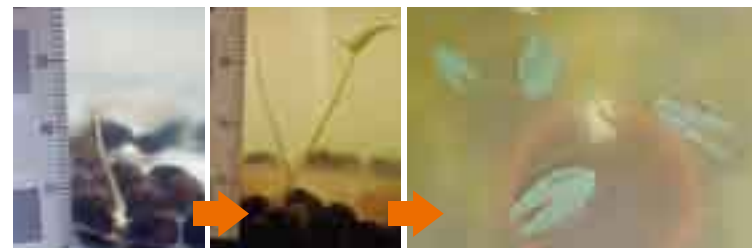
昨年11月、名古屋城外堀で20年ぶりに確認されたオニバスから採集した種子は、調査保全や生育に関する情報を収集する目的で、なごや生物多様性センターで保管しています。

5月末頃、この時に採集した種子の一部から発芽が確認されたため、なごや生物多様性センターの敷地内で栽培し生育記録を残しています。

オニバスは、成長すると浮葉の直径が1m近くになる植物ですが、この個体の成長はとてもゆっくりしているように感じています。

果たしてこの原因が、生育環境によるものなのか、遺伝的なものなのか、まだまだ分からないことがいっぱいです。

(生物多様性専門員 中村 肇)



名古屋城外堀から採集した種子を用いて栽培している個体

市内では20年ぶりとなるオニバスの確認については、ニュースレーダー6号・7号でもご報告しています。

カメの効果的調査・捕獲を目指して
～浮島型カメ捕獲装置の製作～

天板に登ったカメは網の中に落ちる仕組み。



5月20日から7月18日まで、東山新池に設置したところ、27個体を捕獲しました。

なごやの生物情報
データベースを充実させよう!

<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

協議会が整備している「生物情報モニタリングデータベース」は、市民の皆さんから動植物の発見情報をお寄せいただくため、ウェブ上に入力フォームを置きました。対象種は、ミシシippアカミミガメをはじめ11種類です。

インターネットで「生きもの情報登録フォーム」にアクセスいただき、実際に見つけた日付や場所、写真等を登録してください。ご協力よろしくお願いします。

問い合わせ・申し込み先

住 所 名古屋市天白区元八事五丁目230番地(地下鉄塩釜口2番または3番出口から徒歩5分)
電 話 052-831-8104 FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト
<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>

名古屋市公式ウェブサイト
<http://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>

鬼頭 保(なごや東山の森づくりの会)
研谷 厚(花水緑の会)



私たちは、なごや生物多様性保全活動協議会の8活動組織の一つであるミシシippアカミミガメ対策部会において、市民の立場で協議会設立以来関わらせていただいています。

これまで参加したため池におけるカメ調査では、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippアカミミガメ等の生息・繁殖が確認されていますが、調査したほとんどの地域では、外来種であるミシシippアカミミガメが優占し、繊細な日本の自然に脅威を与えているようです。

カメを捕獲するには、かご罟を使用するのが一般的ですが、この方法は、魚のアラを餌とするためメンテナンスが面倒で長年にわたる使用には適していません。そこで2年ほど前、協議会の専門家の皆様からの

提案や助言を受けて、カメのバスキング(甲羅干し)の習性を利用した長期設置が可能なカメ捕獲装置ができないものが試行錯誤しながら試作・検証をしてきました。

このほど出来上がったこの装置の特徴は、可動式誘導板にしたこと、フロートとして丸く表面が滑らかな塩ビパイプを使用することで脱出防止も兼ね備えたこと、そして魚網を除いては全て身近に手に入る部材であり、しかも安価であることなどです。

この装置が、地域でのカメ類の生息調査やミシシippアカミミガメの効果的な防除対策に大いに貢献できればと願っています。なお、この装置は「浮島型カメ捕獲装置」と称し、7月10日付で実用新案登録されました。

見て、ふれて、体験しよう!

～なごや生物多様性センターもブース出展します～

行事の全体については主催者発表のものをお確かめの上、どうぞお出かけください。

「環境デーなごや2013」中央行事

日時 9月14日(土) 午前10時～午後4時
場所 久屋大通公園
(エンゼル広場・久屋広場・光の広場)

「藤前干潟ふれあいデー 2013」

日時 10月5日(土) 午前10時～午後4時
場所 ◎稲永会場(稲永ビクターセンター・野鳥観察館)
港区野跡四丁目11番2号
◎藤前会場(藤前活動センター)
港区藤前二丁目202番地



なごや生物多様性センターでは、市民協働で調査・保全活動を進めるため、「市民生きもの調査員」を募集しています。詳しくはウェブで。

このニュースレーダーは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

8号

平成25年8月

なごや生物多様性
サマースクール
2013

7月20日(土)・21日(日) 青空の下開催!!

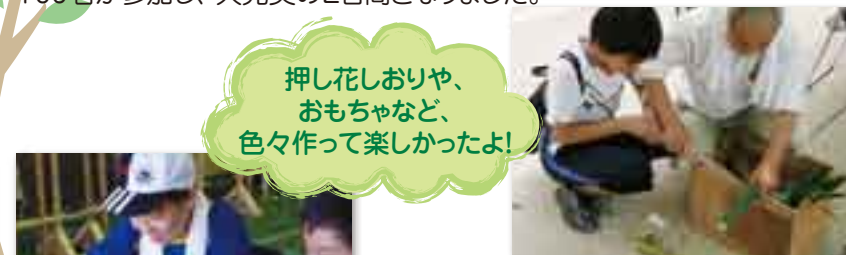
夏休みスタート!子どもたちが身近な自然とふれあい、生きものの不思議を学びました。



なごや生物多様性

サマースクール
2013

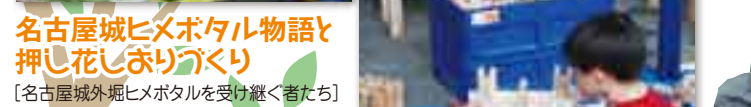
植物を使った工作体験や、生きものの生態学習、森や川でのフィールドワークなど、さまざまな講座を「なごや生物多様性保全活動協議会」主催で開催しました。子どもたちの笑顔と驚きがいっぱい！延べ700名が参加し、大充実の2日間となりました。



押し花しおりや、おもちゃなど、色々作って楽しかったよ！



竹・小枝をつかったクラフト教室
【愛知守山自然の会】



名古屋城ヒメポタル物語と押し花しおりづくり
【名古屋城外堀ヒメポタルを受け継ぐ者たち】



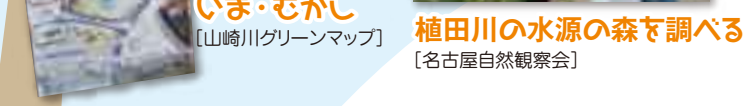
スギ材の標本箱づくりと積み木あそび
【伊勢・三河湾流域ネットワーク】



水質調査もしました。



山崎川のいま・むかし
【山崎川グリーンマップ】



植田川の水源地の森を調べる
【名古屋自然観察会】



ダンゴムシレース
【なごや東山の森づくりの会】



ニワトリの翼で標本づくり
【なごや東山の森づくりの会】



いろいろな化石と生物多様性
【愛知みずほ大学 川瀬基弘さん】



鳥の羽のふしぎ
【日本野鳥の会愛知県支部】



ブラックバスの試食会



なごやの生きものの調査と外来生物対策



食虫植物とトンボの観察
【白玉星草と八丁とんぼを守る島田湿地の会】



カガバタ



小さなミジンコの世界を覗いてみよう！
【名古屋環境科学調査センター】



野生のカメに会ってみよう！
【日本カメ自然誌研究会】



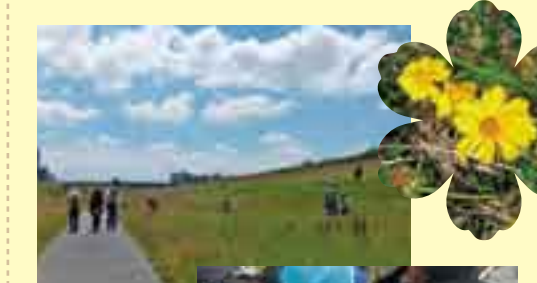
いろんなカメをつかまえたよ！

なごや生きもののウォーキング

河川敷のオオキンケイギクの分布を調査しました

6月15日(土)、16日(日)の両日、庄内川・天白川などの河川敷にてオオキンケイギクの分布調査を協議会主催で行いました。広く呼びかけをした結果、お子さんから大人の方まで214人が参加され、30カ所に分かれて調査しました。

オオキンケイギクは、他の植物に届く光を遮って、その育成を抑圧することなどから、在来植物が衰退する一因として危惧されており、外来生物法により特定外来生物に指定されています。



調査は目視で行い、分布範囲をできるだけ正確に地図上に落とし込みました。あわせて個体群のサイズも記録しました。調査結果は取りまとめをし、今後の活用方法を検討していきます。



なお、調査に先立って、「講座：なごやの外来生物～身近な草花の危機～」やそれぞれの調査地点のリーダーを対象とした「研修会」を実施しました。講師は、調査全体の監修をいただいている津田 智さん(岐阜大学流域圏科学研究センター准教授)にお願いしました。

なごや生物多様性保全活動協議会とは

なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除などを通し、身近な自然の保全に取り組んでいます。平成23年5月設立。平成25年7月末現在、33の団体会員と23人の個人会員で構成。事務局は「なごや生物多様性センター」。このニュースレターでは「協議会」と表記する場合があります。

なごやのイノシシ

かつては名古屋市北部から東部にかけて生息していたイノシシですが、近年、名古屋市では絶滅したものと考えられていました(レッドデータブックなごや2010)。しかし、市北東部の東谷山周辺では、数年前からイノシシの残した痕跡が頻繁に確認されていました。東谷山の湿地の保全活動をしている「愛知守山自然の会」のメンバーに案内していただき、実際に現場を訪れたところ、イノシシのヌタ場(写真①)を多数確認することができました。その後、自動撮影カメラを設置し、イノシシの成体の撮影に成功しました(写真②)。また、何十枚も写っていた写真の中には、メス親の後ろをついてまわるウリボウ(イノシシの幼獣)の姿も確認できました(写真③)。これらのことから、名古屋市北東部の東谷山周辺では、イノシシが繁殖している可能性が非常に高いと考えられました。もちろん、イノシシに市の境など関係ないので、周辺の瀬戸市、尾張旭市、春日井市も含めてイノシシが定着していると言った方が正確かもしれません。

イノシシ *Sus scrofa* はヨーロッパからアジアにかけて広く分布しています。名古屋市北東部に生息するイノシシは、西日本を中心に本州、四国、九州などに広く分布している亜種ニホンイノシシ *Sus scrofa leucomystax* と考えるのが自然ですが、

事はそう簡単ではないようです。群馬県に生息するニホンイノシシのDNAを解析した結果では、ニホンイノシシ集団に欧米の家畜ブタ品種もしくはイノブタが交雑していることが示唆されています(群馬県に生息するニホンイノシシのDNA解析：高橋ほか、2011)。名古屋市内では一度絶滅したとされるイノシシが、最近になって新たに確認されたからといって、昔からこの地域に生息していたイノシシが戻ってきたとは必ずしも言えないようです。市内に生息するイノシシのDNA解析を早急に実施する必要があるでしょう。

イノシシは保護管理上、とても悩ましい動物のひとつです。名古屋市のように生息数が少ない地域においては、希少種としてレッドリストに記載される可能性があります。しかし、個体数密度が高くなると、農業被害等が増加すると考えられ、捕獲による個体数の調整が必要になります。特に東海丘陵要素の植物が生育する貴重な湿地が残存している名古屋市北東部でイノシシが増加した場合、湿地やそこに生息・生育する生きものに大きなダメージを与えるかもしれません。今後、イノシシの生息状況については十分にモニタリングしていく必要があります。

(生物多様性専門員 野呂 達哉)



(写真①) 東谷山で撮影されたイノシシのヌタ場



(写真②) 東谷山で撮影されたイノシシの成体



(写真③) 東谷山で撮影されたイノシシのメス親と幼獣

「アライグマ防除にかかる情報交換会」を開催しました

平成25年6月14日(金) 14時～16時30分
なごや生物多様性センター 2階会議室



基調講演をいただいた中部地方環境事務所の谷津恭子さんはじめ、愛知県、市町の職員20名が参加しました。

なごや生物多様性センターでは、なごや生物多様性保全活動協議会をはじめ市民の皆さんや研究者の皆さんと協働して防除に取り組んでいます。アライグマは行動範囲も広く、名古屋市単独で成し遂げることができるものではありません。そこで効果的な防除を目指して周辺市町の皆さんにお集まりいただき、情報、意見の交換や課題の共有をしました。

なごや生物多様性センターは、アライグマ防除に限らず、今後とも必要に応じて様々なセクターの皆さんと意見交換や連携、協働し事業推進して参ります。このたびの情報交換会を開催するにあたりましては関係機関・関係者の皆さんに多大なるご協力をいただきました。感謝を申し上げます。

現在、なごや生物多様性センターを拠点として市内で取組んでいるアライグマ防除につきましては、次号以降のニュースレターにてご報告していく予定です。

アライグマ

《体色》灰白色の場合が多いが、個体変異があり、ほとんど黒色のものもある。目のまわりから頬にかけて黒いマスク様の模様がある。
《尾》長く密にふさふさとした毛が生えており、4～7条の黒いリングが特徴的。
《形態》前肢の指は長く、物を掴むことができる。歩く際に踵が地面につく「しゃ行性」。
《サイズ》頭胴長は41～60cm、尾長は20～41cm、体重は2～10kgが一般的。
〔「アライグマ防除の手引き」環境局 野生生物課 外来生物対策室より引用〕